

「わたしを落とした」

作 吉田康一

○登場人物

カズオ (六〇代前半)

妻 和子 (五〇代後半)

娘 和美 (二〇代前半)

息子 和希 (二〇代前半)

環境分析サービススタッフ

マスク (三〇代後半)

サングラス (三〇代前半)

迷うヒト

スミタ (きつと二〇代前半)

○ 場所

公園——どこか、この社会から取り残されたような雰囲気漂う公園。

- ・下手に、ブランコ。
- ・中央に、大きい砂場。
- ・中央奥、ベンチ。ふたつみつつほど。
- ・上手に、土砂や瓦礫の堆積した小山。

地面に雑然と落ちているモノの候補として、

- 1 新しいモノよりは古いモノ。
- 2 だれかの生活に関わっていたであろうモノ。
- 3 土砂や瓦礫のなかには、小石や岩、貝殻、発泡スチロール、木屑、浮き輪、こどもの玩具、ギター、大きささまざまなペットボトルなど。とにかく沢山。

公園 (補足)

かつて競争率数十倍の憧れの団地だったのだから集合団地の一角にありそうな公園をイメージしている。

かつてはたくさんの子供たちが遊んでいたのかもしれない。が、いまでは子供の声も聞こえないし、どの遊具も古びているし、周囲の雑草は好き勝手に伸び放題でもあるし、全体的に荒れていて、もの寂しい様相……をイメージしている。

朝もやのような薄いものがうつすら立ちこむ、冬の早朝。

四つん這いで、あたふたと探しものをしている白髪の男がひとり。カズオである。

四つん這いで、進んでは止まり、地面にグーツと顔を近づけて、メガネを外して……

首を傾げて「ちがう……」。すかさず、また進んで止まって、メガネを外して……首を

傾げて「ちがう……」。

これを幾度と繰り返すカズオ。

一方から他方へ、あちらからこちらへと、絶えずズラしてゆきながら、カズオはヒドクちいさいナニカを探し続けて……やがて、

カズオ（くたびれたのか、いったん地べたにしゃがむ）……（腰をさすったり息を整えたり。すると、ふいにギョツとする）——

下手のブランコが、ふいに揺れたのだった……

カズオ——（なにもかも忘れて見続けて、やがて憑りつかれたかのように、ブランコが揺れるリズムに合わせて身体を揺らしはじめて）キーコ……キーコ……キーコ……

よせてはかえず波の音が静かに遠くに聞こえてくる。

金属を軋ませながら、ブランコは揺れて……やがて自然に止まる。

カズオ（ハッと我に返って）……わたしわたし……（ふたたび四つん這いになって、先ほどとは打って変わってひどく慌てて、必死に探しはじめる）……わたしわたし（と、ボンボンと、ほんとうにボンボンといいながら、てんやわんや、ひとりで騒ぎ立て、地を這って探しながら）……わたしわたし、わたしわたし、わたしわたし……（と、探し）……わたしわたし、わたしわたし……（と、探し続け）……わたしわたし、わたしわたし……（と、なおも探し）……わたしわたし、わたしわたし……わたし……（と、探し続け）……わたしわたし、わたしわたし……（と、切ない）……（かぶりを振る。探すことだけに専念して探そうとして）……わたしわたし……へへ……（が、やっぱり切ない）。（ブランコを見遣る）……年甲斐もなかった……バカ（と、ちいさく）……バツカやろう……。 （ブランコは止まっているが、カズオはまた左右に揺れはじめ）キーコ……キーコ……（これはカズオにとつての、ブランコが軋む音なのだろうか）……キーコ……キーコ……

気づけば、波の音が聞こえない…… 次第次第に消え入ったのだ……
上手から、ヒトを探しながら入ってくる女がひとり。娘の和美である。

娘 (思わず立ち止まって、えええッ、というおどろきで)……

カズオ キーコ…キーコ…(と、左右に揺れて、ふいにハッと気づいて)見つけた。

カズオ、慌てて地面を覗いて、グーツと顔を近づけて、

カズオ (メガネをはずして)…ちつ。(と、舌打ち)

娘 (遠慮がちに近づいてきて)どうしたの、お父さん……?

カズオ (向いて、おどろく)…か、和美? どうしたんだ、おまえ?

娘 お父さんこそ。

カズオ ……? (和美がいることが信じられないのか、眼をこすっている)

娘 (わかっていないようなので、バッグからマスクを出して)ほら。忘れてったでしょ。

カズオ ……ん?

娘 ダメでしょ、ちゃんとつけなきゃ。

カズオ おまえこそ。(娘はつけていないので)

娘 アタシはいいの。

カズオ いいわけないだろう?

娘 いいの。(マスクを差し出して)はい。

カズオ (受け取らず)…(ポケットを探って、マスクを取り出して)ん。

娘 え? 持ってたの……?

カズオ ああ。

娘 じゃ、つけてよ。

カズオ (ズボンのポケットに押し込む)

娘 あ…:(なによ、という思い)

カズオ 気休めだ。こんなもの。

娘 だからって、クシヤッとする? わざわざ届けに来たくらいよ?

カズオ つけたって、なにも変わらない。…ちがうか?

娘 でも。おねがい。

カズオ ふん。

カズオ、ふたたび四つん這いの格好になって手探りで進みはじめる。

カズオ (地面に顔を近づけて、メガネをはずして)……ちがう。
娘 (さっきからなに?) 落としもの?

カズオ (向いて、メガネをかけて、娘をジッと見て)ああ。じつは、わたしを落としとしてしまったってね……

娘 ? ……わたし?

カズオ ああ。ウツカリ落としちゃった、わたしつてやつを。

娘 え?

カズオ (探しはじめる)こまったもんだよ。まったく……

やや間。

娘 ねえ。お父さん。

カズオ あ? (と、探しながら)

娘 それってなに……?

カズオ ……は? わたしだよ。

娘 だから、それってなあに?

カズオ わたしに決まってるじゃないか。当たり前だろ。(さも当然そう)

娘 ん? え……だから、それってどういうこと?

カズオ わたしのことさ。

娘 うん。だからそれって、どういうこと?

カズオ ……和美。

娘 なあに?

カズオ しつこいぞ。

娘 ……だつてわかんないから。

カズオ (サツと見渡す)とにかく、おまえはアッチだ、アッチ。(と、上手のほうを指す)

娘 え? アッチってなに……?

カズオ 決まってるだろう。おまえも探すんだよ。

娘 ええ? でも、

カズオ ボヤツとするな。(キョロキョロ見回して)まだそこらへんにいるはずだ。

娘 (なんととはなしに見渡して) え……?

カズオ (探しにかかっている)ぐまなく探せよ。いたら、掴まえるんだぞ。いいな?

娘 掴まえる?

カズオ そうだ。掴まえるんだ。サクツとな。

娘 ……??

カズオ はやく。

娘 ……あ、うん……

娘、どうしたものかと、その場で立ち尽くす。……が、はたとわかつて、

娘 (カズオの腕を掴まえて)はい。

カズオ (びつくりして、向いて)…おい、ちがうだろ……？

娘 ——(真顔である)

カズオ だから、ちがうだろ。(と、娘の手を振り払う)これは、わたしじゃないんだ。

娘 ……え？ ちがうの？

カズオ バカやろう。

娘 ……(ひとりごちる)おなじじゃないのかあ……

カズオ だからアツチだよ。アツチを探せ。(上手のほうを、あごで指す)

娘 はあ……(と、ぼんやり見る)

娘、上手に向かう。瓦礫の山の前まで来ると、辺りを見回して、とりあえずしやがん

で……

娘 (なんとなく探して)……(なんとなく地面をジッと見て)……が、やはり困惑して)……

カズオ ……(和美の様子を窺っている)

娘 (気づいて)なあに？ 観察しないでよ。

カズオ ……いや、どんなふうを探すのだろうなって(思っ)て。

娘 ……いじわる。

カズオ はは。(まるで教えてやるみたい)にいいか。なんとなくやつちや、ダメだぞ。

娘 ……は？

カズオ もっと気持ちを入れるんだ。想いを込めるんだ。

娘 ……あ、うん……

カズオ これはタイヘンなことだからな。…いわば非常事態なんだ。

娘 非常事態……？

カズオ ああ。非常な事態だ。(と繰り返すと、背を向けて探しはじめて)わたしわたし…

娘 ……(なんとなく、目についた細かなモノを拾ってみる)……(なんとなく悩んでみる)……

わたし？ (首を傾げる)

カズオ (つい気になって観察している)

娘 (ナニカ拾って)……わたし？ (と、また首を傾げる)

カズオ なに半信半疑になってるんだ。シツカリしろ、和美。(また地面を探りはじめる)
娘 ……

娘、おなじく探すことにしてみる。…が、やがて、

娘 ねえ。

カズオ ん？ どうした？

娘 もし、アタシがアタシを落としたり、そしたらお父さんはちゃんと見つけれらる？

カズオ (しつかり見て) 当たりまえじゃないか。

娘 (おどろいた)…それこそサクツと……？

カズオ ああ。サクツとな。

娘 ……どうして……？

カズオ なぜもなにもあるか。生まれたときからずっと知っているんだ。わからないわけないだろ。

娘 え？ それが答え……？

カズオ ああ。ずっと見てきたんだぞ。ははは。(と、自信たっぷり)

娘 はあ……

娘、もやもやしたものは解消しなかったが、ひとまず探してみる。

ふたり、しばらく無言で探し続ける……

やがて、

カズオ (気になって) おい。和子はどうしてる(いまなにやってる)？

娘 (向いて) え？ (考えて) まだ寝てんじゃないの？ (知らない)

カズオ ……ったく。しょうがねえな。

娘 (いったん探していた手を止める)……が、でも、と探して探してみる)……

ふたり、また無言で探し続ける。すると、

舞台中央・奥から、駆けて入ってくる女がひとり。

妻の和子である。(つっかけサンダルである)

和子 (気づくなり) なあに？ ふたりして？ アリでも追いかけてるの？

娘 (向いて) あ、お母さん。ちょうどよかった。

和子 ……？

娘 アタシひとりじゃムリ。(と、和子の傍へ)

和子 どうしたの？

娘 うん。あ、でもお母さんこそどうしたの？ もしかしてムシの知らせ？

和子 は？ なんのこと？

娘 あ、ううん。(そういうわけじゃないんだね)

和子 忘れてったのよ。お父さん。

娘 ほかにもまだあったの？

和子 アンタはマスクだけど…あたしはコレ。(と、紳士モノのコインケースを出して)

娘 (見て)なあに、お父さん、ちよびつとケースも？

和子 そう、玄関にポント(置いてあつて)。

娘 へー。まったくもう。

和子 ほんとよ。あー、いやだいやだ。

娘 それで、(お母さん)急いで？

和子 だって、お金だから。ないと困るかなつて。だけど(カズオを見遣つて)――

カズオ (なぜか、さつきよりも真剣な表情で探している)

和子 お父さん、ムシ好きじゃないのに。…どうしたのあれ？

娘 (おなじく見遣つて)あ、うん。落としモノしたんだつて。

和子 …にしてもミヨウな探しかた。

娘 なんかねえ……

和子 けど、いつもコレしか持つて行かないのよ。(コインケースのこと)

娘 え？ そうなの？

和子 そう。だから落とすモノなんか、ひとつもないんだけど？

娘 …え、でも、さつきからお父さん、

カズオ (割つて)和子。おまえも手伝え。

和子 はあ？

カズオ あの辺だな。(と、砂場を指している)

和子 もう帰るわよ。用は済んだし。ゴハンつくらなきやだし(コインケースを渡そうと)

カズオ (受け取らず)手伝え。

和子 いやよ。

カズオ 手伝えつて。

和子 いやです。(コインケースを娘に渡す、そして帰ろうとする)

カズオ 待て。行くな。(急に大きな声で)あ。おい。気をつける。踏むんじゃないぞ。

一瞬の間。

和子 は？

娘 ……え？

カズオ くれぐれも気をつけてくれよ。

娘 ……(足元を見ている)

和子 なあに？ 踏むって？

カズオ いいか。足元には要注意だぞ。

娘 (クツ裏を見て)…踏んじやったかなあ。

カズオ 頼むぞ。踏まれちゃ、たまったもんじやないからな。…なんだか、そしたらあまり

に哀し過ぎるからな…。いいか、気をつけろ。気をつけてくれよ。

娘 ……うん。(足元を確かめて)大丈夫だと思っ…

カズオ (和子に)とくに、おまえ。(と、和子に)

和子 え？ なあに？

カズオ よく躓いてるじゃないか、家で。

和子 あらそう？

カズオ へ。とぼけやがって。(地面を探しはじめる)

和子 ……だいたいなに探してるっていうの？ (と、娘に)

娘 わたしなんだって。

和子 ……は？ (聞きがちがえた、と考えて)…タワシ？

娘 なにいつてるのよ。わたしよ、わ、た、し。

和子 ……それって自分ってこと？

娘 そう。

和子 へえ…落ちるもんなのねえ…

娘 ……ね？ (ホントよね)

和子 あたしもウカウカ落とさないようにしないとだね。和美も気をつけなさいよ。

娘 へ？ あ、うん。

和子 あんなになっちゃうからね。(カズオを見遣っている)

娘 (おなじく見遣って)…

和子 ……にしても、そんなにちいさいの、わたしって？

娘 みたいね…

和子 あらら、お気の毒なこと。あたしのわたしなら、もっとごう…岩のようにドカンとし

ててほしいわー。まあ、せめて小石くらいあってほしいな。

娘 ドシンでしょ？ ドカンじゃなくて。

和子 ドカンよ、ドカン。

娘 …まあ、アタシ的には、わかりやすければいいな。どうせ(落とす)のだったら。

和子 (合掌し)どうか輝かしい、そしてとても大きなダイヤでありますよーに。(ボンボンと手を叩き、そしてカズオを見る)

カズオ ——(フランクコの周りを、手探りで進んでいる)

和子 あんな格好で見つかるほうが、どうかしてるわよ。ねえ。

娘 うん、まあ、

カズオ (つい)あの子、おまえたち。ちゃんと探せって。クチよりふたつの手を使えって。

和子 なあに？ カリカリしちゃって。

カズオ うるさい。手だ、手。

和子 なによ。(娘に)いやねえ。

娘 でも、さっきから必死だからお父さん。

和子 ちょっと自分に夢中になり過ぎじゃない？

カズオ ふん。相変わらずの。ペラペラっぶりだな。

和子 …よくいうわ。

カズオ 元気そうでなによりだよ。

和子 そういふあなたも元気そうで。

カズオ …ふん。(探すことに専念する)

和子 …あ、逃げた。

娘 お母さんもちよつとだけでも手伝ってよ。ぜんぜんわかんないのアタシ。おねがい。

和子 (サラリと)いいわよ。だつて簡単よ、そんなの。

娘 ほんと？

和子 わかんないもん。どうせ。

娘 …でもアタシより、見つけられそうな気がするし。

和子 そりゃわからないわよ？

娘 ううん。お母さんのほうがわかるって。

和子 あらそお？ …(ちよつと)考えて、なにか思いついた顔じゃ、ちよつとだけ。へへ。

娘 ……？

和子、鼻がきくのか、すぐさまベンチのほうへ向かうと、地面をジッと睨んでから、ゆっくりとしゃがむ…。あとを追いかけて、娘も、しゃがむ。

和子、まだ地面を見詰めたり、辺りを見渡したりして、やがて目星をつけると、

和子 (石ころを拾って、叫ぶ)あなたー。これ？

カズオ (向いて)ちがう。

和子 (すぐさま、こんどは木屑を拾って)これ？
カズオ (また向いて)ちがう。
和子 (すぐさま、べつの木屑を拾って)じゃこれ？
カズオ ちがう。
和子 ……え？
カズオ ……え、ってなんだよ？
和子 きつとコレよコレ。だって、ほら。似てるでしょカタチ。鼻の感じとか。
カズオ ちがう。
和子 ちがうくないわよ。
カズオ ちがう。
娘 (和子の探しかたを真似て)…これは？ (電球を持っている)
和子 あ、イイじゃないソレ。うん。
カズオ ちがう。
娘 え？ けど取り替えるのって、お父さんの役目じゃん？
カズオ ちがう。だからってちがう。
娘 ……
和子 (汚い発泡スチロールをつまんで)これでしょ？
カズオ ……まさか。
娘 (空のペットボトルと空き缶を両手につかんでいる)…どう？
カズオ ちがう。
娘 どっちも？
カズオ どっちも。
娘 あ、そう…
カズオ ……おまえ。空っぽのモノばかり選んでないか、さつきから？
娘 ……え、そう？ (自覚がない) だってこういうのもお父さん(の役目)じゃん？
カズオ まあ、捨てには行くけどな。
和子 (空き瓶を見つけてきて)これは？
カズオ だから、ちがう。…なんだ？ 空っぽなのか、わたしは？
和子 ……え、なに？ あなたって空っぽだったの？
カズオ ……バカヤロウ。
和子 あ、そう。(わかったわ、という語調)…じゃあ…(と、また探す)
カズオ (気になったので)…おまえたち、マスクはいいのか？
和子 あなたこそ。
カズオ 気休めだろ。しよせん。

和子 いいじゃない、気休めでも。(土をすくって)これ？

カズオ バツカやろう。どうして土なんだよ。

和子 土じゃないわよ。粘土よ。

カズオ おなじじゃないか。

和子 ちがうわよ。

カズオ どっちにしろ土全般なんかじゃない。

和子 ハハッ。なん世紀にも渡って、ずっと存在するっていうオツチさまを……

カズオ ああ。むろんアスファルトもだ。

和子 ……大地でもないときたか。やれやれ。(パンパンと土を払って)マスクつけたら？

カズオ (キッパリと)しない。変わらないだろ、結局。

和子 (やさしく)けど安心するんだけどな。

娘 うん。

カズオ ……おまえたちは、どうしてマスク押しするんだ…どうだっというじゃないか。

娘 (貝殻を見つけてきて)これは……？

カズオ ちがう。…にしてもデカイな。(たしかにデカイ)

娘 だからどうかなくて……

カズオ ……ん？ だからつまり…どうなんだ？

和子 (おなじく貝殻を拾ってきて)こっちならどう……？

カズオ だから、どうしてわたしが貝殻なんだよ。

和子と娘、思わず顔を合わせて……

カズオ (その様子から察して)ん……？ わたしはもしや、貝殻なのか……？

和子・娘 ……

カズオ ん……？

和子 (貝殻をシッカリ見せて)よく見て。あなた。

カズオ ん、あ、ああ。(見る)……なんだって急にあらたまるんだ。

娘 ……どお？

カズオ ……ちがうだろ？

娘 本当にちがうのかなあ……？

和子 よく見て。

カズオ ……だからちがうって。

和子 そうかしら。

娘 もっとよく見て。

カズオ え？ ちがうだろ？

和子 ……そう？

カズオ そうだろ？

和子 そうかなあ。

娘 (おなじく) そうかなあ。

カズオ ……そうだって。

和子 (あらたまって) あなたってきつとコレよ。

娘 きつとコレだって。お父さん。(カズオに貝殻を渡す)…うん。なんか、お似合いよ。

カズオ ……は？

そこへ下手から、若い女・スミタが入ってくる。(片手に大きい地図帳を持っている)

スミタ、ムズカシイ表情をしながら、(カズオを目掛けてまっすぐ歩いてきて、

カズオ ……ん？ なんですか……？ (思わず後退る)

スミタ (カズオの貝殻をジッと見て) ソレなの、あなたって？

カズオ ……？

スミタ (グッとさらに近づいて、見て) ずいぶん平べったいのね？

カズオ (思わず) な…、失礼な…

スミタ ふふ。(と、笑って、ポケットからナニカを出して) アタシはね、コッチなの。

カズオ (見て)…え？ ……巻貝？

スミタ そ。オレンジ色の。(たしかにオレンジ色の巻貝である)

カズオ ……

和子・娘 ……？